

## 2 愛媛農試方式のシステム概要

掛け流し方式では水と液肥を液肥混入機で調整した培養液を与え、給液量の約20%を排液として捨てます。これに対して、全量基肥での循環栽培は、予め一作に必要な肥料を全量基肥で施用し、後は水のみ（排液が一部混ざる）を与え、栽培槽から排出された排液を給水用のタンクに戻し、繰り返して使用する栽培方式です。そのため、液肥混入機等の機材を必要とせず大幅なコスト低減が図られます（図2）。

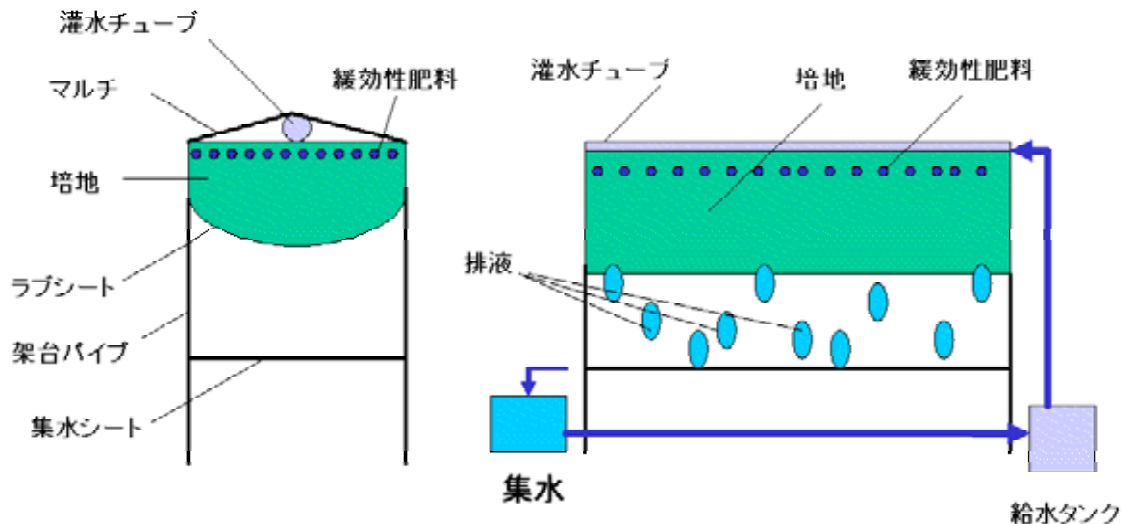


図2 愛媛農試方式（循環型）によるイチゴ高設栽培の模式図

栽植本数は、ベッド間隔130cm×株間20cmの2条千鳥植えで7,692株/10aとなります。